

各種の交通プロジェクト中間報告

国や自治体、経済界、学識者ら関西の産学官で経済活動や防災・減災対策、観光振興に欠かせないインフラ整備について考える「関西のインフラ強化を進める会」(委員長・小林潔司京都大学経営管理大学院特任教授)は27日、大阪市中央区の大阪キヤッスルホテルで第10回会合を開いた。写真。ソーシャルトランスフォーメーションについての講演や、これまで議論を進めてきた各種の交通プロジェクトを中間報告として取りまとめた。



会議ではまず、「DXからS
Xへ」新型コロナウイルス蔓延
のパンデミックスを経て、ソ
シャルトランスフォーメーション
の可能性を探る」をテーマに

リ・パブリックの藤原まり子フ
エローが講演し、意見を交換し
た。「これからの防災・減災につ
いて必要なこと」について溝口
宏樹近畿地方整備局長が説明に

関西のインフラ強化を進める会が第10回会合

立ち、近年の災害事例を報告し、

「災害から国民の命と暮らしを守るためには、国民一人一人がさまざまな仕組みに防災・減災を考慮することが当たり前になる社会を作っていくかなければならない」と訴えた。さらに「気候変動に対応するには新たな治水対策への変換が求められる。速やかに河川整備基本方針や整備計画の見直しに着手しなければならぬ。同時に人の活動と環境保全に果たす水の機能が適切に保たれる健全な水循環の姿を考える必要がある」と語った。

続いてNPO法人明日の夢土木の「関西の夢プロジェクト発表会」で最優秀賞を受賞した中
央復建コンサルタントの柳川篤志氏と若部有合恵氏が「デジタ

ルツインで考える関西の夢プロジェクト」を披露。リニア中央新幹線が乗り入れる新大阪開発について夢のある提案を行った。

中間報告では「関西のインフラ強化を進める会」望まれる交通プロジェクト」として、アジアに目を向け、西日本との連携を強化するさまざまなプロジェクトを提案。「リニア中央新幹線・北陸新幹線と鉄道網の拡充」や「高速道路網の拡充とバスタ」 「関西3空港の一体化」 「観光資源ネットワークと瀬戸内クルーズ」など、今後の議論に向けたたたき台を示した。

小林委員長は「中間取りまとめは今後のインフラの姿を描くためのキックオフとなる。新型コロナウイルスという大きな課題に対し、リスクを踏まえながら観光をどのように考えていくかも必要だ」と述べた。